

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立晴海西中学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国 語	【4月】・文章を読む機会が少ないことによる漢字に慣れ親しむ環境が少ない。 ・継続して漢字学習に取り組む生徒の個体差ある。 【10月】・各学年とも「漢字を書く」分野において課題が見られた。また、特に2年生において「活用」の領域における表現が課題である。
数 学	【4月】・各学年とも思考力・判断力・表現力の向上が課題である。 【10月】・各学年とも「活用」の領域において課題が見られた。また、学年が上がるにつれて、「基礎」と「活用」の領域との乖離が課題である。
社 会	【4月】・第2学年での知識・技能の定着が課題である。 ・アンケートにおいて社会科が好きと肯定的に回答する割合が低い。 【10月】・各学年ともに、基礎的な知識の定着に課題があった。特に、2年生では地理的分野「世界の諸地域」、歴史的分野「中世の日本」、3年生は歴史的分野「近世・近代の日本」における知識の獲得に課題があった。
理 科	【4月】・各学年とも、物理領域など日常生活の中で目では見えないミクロな視点における明確なイメージの把握が課題である。 【10月】・各学年とも基礎分野の正答率に課題があった。また、1年は物質・エネルギー分野(水溶液の性質・物の燃え方)、2年はエネルギー・粒子・生命(植物動物の分類・物質の状態変化・力の性質)、3年は生命(生物と細胞)が課題である。全国学力調査では、動物のからだのはたらき・地層の性質における思考力に課題があった。
英 語	【4月】・1年生では「読む力」「書く力」を向上すること。 ・2、3年生では、語形・語法や語彙の知識・理解など基礎学力の更なる定着。 ・3年生では5領域の力を育てる技能統合的な活動および確かな学力との連携。 【10月】・全体として、各学年とも高い正答率を維持し、安定した学力向上が見られた。 ・課題として、1年では小学校での学習頻度が少なかったと考えられる英文の読み取り(リスニング)の回答率の向上、2年では語形・語法の知識と理解が他の項目に比べてやや低いため、継続的な文法学習を行うこと、3年では話すことと書くことを連動させた問題を積極的に取り入れ、表現力を高めることが課題である。
体力向上	【4月】・男子はボールを投げる能力と敏捷性の向上。 ・女子は筋持久力と柔軟性の向上。 【10月】・男子は3学年ともに、ボールを投げる力について改善が見られたが、柔軟性と敏捷性に課題があった。 ・女子は3学年ともに、柔軟性について改善が見られたが、敏捷性と延伸持久力に課題があった。

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【4月】・令和7年度実施の学習力サポートテストで、全学年で「漢字を読む」の領域において区の平均点を上回ること。 ・生徒に対するアンケートにおいて、漢字の学習への取組について肯定的な回答をする生徒の割合を増加させる。 【10月】 ・令和7年度の学習力サポートテストでの「漢字を読む」の領域での目標はおおむね達成することができた。それに合わせて「漢字を書く」領域および、知識の活用の内容に関しての能力の向上を目標とする。	各単元において既習事項も含めて漢字の学習に取り組み、定期的に漢字テストを実施することによって、漢字に触れ、親しむ環境を作る。 ・単元テスト等で定期的に習熟度を測る機会を設けて漢字に触れる機会を増やす。「ドリルパーク」等のICT機器も適宜活用しながら単元学習と並行しながら漢字への理解を高める。

		授業の中で ICT 機器を活用し、協同的な学習を取り入れ、主体的に学習に取り組む活動を行う。
数 学	【4月】令和7年度実施の学習力サポートテストで、全学年で、観点別「思考・判断・表現」において区の平均点を上回ることを。 ・生徒に対するアンケートにおいて、数学の授業における ICT 機器の活用について肯定的な回答をする生徒の割合を増加させる。 【10月】1・3学年で、観点別「思考・判断・表現」において区の平均点を上回る目標を達成できた。知識の活用と表現力の向上を目標とする。	・身の回りにある課題を提供することで、主体的に考える態度や思考力・判断力の向上を図る。 ・ICT を効果的に活用し、視覚的に理解できるようにする。 ・ワークシート等を利用して別解を考える活動を増やす。また授業中に別解を発表する機会を増やす。
社 会	【4月】令和7年度実施の学習力サポートテストで、全学年で観点別「知識・技能」において区の平均点を上回ることを。生徒アンケート等において、社会科が好きと肯定的に回答する割合を増加させる。 【10月】知識・技能の正答率に課題があったため、地理的分野では地域の特色、歴史的分野では時代の特徴を大まかに理解するだけでなく、個別の知識を活用して、地域の特色や時代の特徴を理解できるようにする。	・生徒の主体性を高めるために、生徒が問いをつくり、課題追究して、知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力の向上を図る。 ・各学年ともに、引き続き、生徒が主体的に課題を考え、追究できる学習に取り組む。 ・単元のまとめにおいて、個別の知識の確認やそれを活用した地域の特色や時代の特徴が理解できるようにする。
理 科	【4月】令和7年度実施の学習力サポートテストで、全学年で物理領域において区の平均点を上回ることを。生徒アンケートにおいて、物理領域の学習への取組について肯定的に回答する割合を増加させる。 【10月】基礎分野の正答率に課題があったので、基礎学力充実のために、小テストや宿題の適時実施を行う。併せて、ICT 機器を用いた授業を実施し、概念の可視化を行うことで理解力の向上を図る。また授業アンケートを実施し、アンケート結果による授業改善も並行して行う。	・「主体的・対話的で深い学び」を高めるために、ICT 機器を用いた授業を展開し、目に見えないものを図や映像等でイメージさせる。 ・小テスト・宿題の適宜実施。 ・ICT 機器の活用による概念の可視化をさらに取り入れる。
英 語	【4月】令和7年度実施の学習力サポートテストで、全学年、全領域において区の平均点を上回ることを。特に「書くこと」においてはどの学年でもさらなる向上を目指す。生徒アンケートにおいて、「読むこと」「書くこと」の取組について肯定的に回答する割合を増加させる。 【10月】ICT 環境や ALT を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた言語活動を充実させ、授業改善を図る。	・「主体的・対話的で深い学び」では子どもたちの資質・能力を育むことを目指し、少人数授業や ALT との言語活動を通し、ペアワークやグループワークなどの活動も実現し、5技能をバランスよく向上させる。 ・単元テスト、パフォーマンステスト、スピーキングテストの実施。単元の振り返りでは、ICT 機器を活用し、協働的な学習を取り入れ、主体的に学習に取り組む活動を行う。
体力向上	【4月】令和7年度実施の東京都統一体力テストで、全学年「ハンドボール投げ」「反復横跳び」「長座体前屈」の種目において全国平均を上回ることを。 【10月】令和7年度実施の東京都統一体力テ	タブレットを利用し、生徒自身が自分の課題を解決するための手立てを調べる学習を行い、その方法を実践する環境を提供する。また、コーディネーショントレーニングや補強運動を授業内で行う。 ・補強運動でラダートレーニングを

	ストで、男女ともに「反復横跳び」で全国平均を上回ることを目標とする。	取り入れる。また、ICTを使った練習メニューを生徒が主体となって考える取り組みを行う。
--	------------------------------------	---

個別最適な学びと協働的な学びの充実

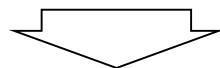
取組	授業や家庭学習でのタブレットの活用を行い、ドリルパーク等を活用するとともに、授業内で友達の意見を参考に学習調整の促進を図るなどして個別最適な学びを充実する。また、授業では、話し合い活動やグループ活動を行うことで、互いが刺激し合いより良い学びを生み出す協働的な学びの充実を図る。
----	--

探究的な学びの充実

取組	授業において、課題解決型の授業を推進し、タブレットの活用や話し合い活動の充実を図る。また、総合的な学習の時間において単元ごとに課題を設定し、追究し、課題解決を図る取組を推進する。
----	---

読解力の育成

取組	授業において、教科書を読ませたり、学習課題を表現させたりすること、朝の活動の時間で読書活動を行ったりすることを行う。読書活動の充実を図るため、図書委員会において生徒が主体となって読書活動を推進する取組を実施する。
----	--



3 取組結果の検証

	令和7年度の取組の成果	令和7年度の取組の課題と解決策
国語		
算数・数学		
社会		
理科		
英語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実

成果と課題	
-------	--

探究的な学びの充実

成果と課題	
-------	--

読解力の育成	
成果と課題	